



「高校生課題探究発表大会」を本学で初開催！



▲プレゼン部門



▲ポスター部門

本学主催の「高校生課題探究発表大会 2021」が、8月10日に附属図書館で初めて開催されました。プレゼン部門、ポスター部門に合わせて16校45組の高校生が出場し、日ごろ取り組んでいる課題探究の成果を発表しました。プレゼン部門の最高賞には、大島高等学校（チーム「BETA」）の「リサイクル率向上で美しい奄美に」が選ばれ、ポスター部門の最高賞には、国分高等学校（チーム「セミの抜け殻班」）の「セミの抜け殻は語る～気象条件との関わりに重点をおいて～」が選ばれました。

本大会は、高校生が自らテーマや課題を設定し、先行研究などの文献調査やアンケート調査の結果等を基に、理論的考察を加えた探究成果をプレゼン方式（1組あたり発表5分と質疑応答5分）やポスター方式（発表時間1グループ45分間）で披露するもので、「ジェンダーギャップ」や「医療やこころの問題」、「環境」などの社会問題から「地域振興」や「国際支援」、「自然科学」まで様々なテーマで発表がなされ、会場は高校生の研究意欲にあふれる熱気に包まれていました。

発表を終えて、プレゼン部門では国際文化学部長の

大坪治彦教授が「自ら課題を設定し、それに対し真摯に向き合って追求していく学びを高校生が取り組んだことに敬意を表する。根拠のあるデータをもとに説明する能力をさらに高めてほしい」と話し、ポスター部門では副学長の千々岩弘一教授が、「近未来はあふれる情報により、世界の見え方や感じ方が変わっていくことが予想される。したがって、これまでの研究結果に満足せず、研究結果を相対化する視点を持ち、自分たちの研究をどう伝えていくか磨きをかけてほしい」と講評しました。

参加した高校生からは「これまで思いつかなかった視点の質問をもらった。今後さらに調べてみたい」「研究してきたことを多くの人に伝えることができるとてもうれしい」「他校の研究内容に刺激を受けた」など、充実した大会の様子が感じられる声が寄せられました。

また、本大会は、事前の体調管理や当日のコロナウィルス感染対策等を十分に行いつつ実施しました。ご協力いただき、ありがとうございました。

なお、発表大会の審査結果は裏面のとおりです。



高校生課題探究発表大会 審査結果

プレゼン部門

- 学長賞 大島高等学校(チーム名: BETA)
「リサイクル率向上で美しい奄美に」
- 優秀賞 鹿児島修学館高等学校(村上真希)
「民法第822条『懲戒権』の検討」
- 奨励賞 鹿児島情報高等学校(チーム名: 感・環 Cambodia)
「私たちの Camboidea ～カンボジアのためにできること～」



ポスター部門

- 南日本新聞社賞 国分高等学校(チーム名: セミの抜け殻班)
「セミの抜け殻は語る～気象条件との関わりに重点を置いて～」
- 優秀賞 錦江湾高等学校(田中姫星)
「女子トイレの3密を防ぐには？」
- 優秀賞 神村学園高等部(竹田みいな)
「鹿児島県における家庭内貧困と子供の貧困」
- 優秀賞 鹿児島高等学校(吉原彩乃)
「価値判断におけるアンカリング効果と集団議論」
- 奨励賞 鹿児島修学館高等学校(山口幸輝)
「十島村に自衛隊を誘致することは医療体制の充実につながるか」



課題掲げ 学びに熱を



奄美のリサイクル率向上に向け、対策を発表する大島高校の生徒
＝鹿児島市の鹿児島国際大学

奄美の生物多様性が評価され、世界自然遺産となった。生物を保護するため、自分たちにできることはないかと思い、奄美の自然について調べた。

海や山にはペットボトルやプラスチック、家電類の不法投棄が見られた。ごみは、生物の体を傷つけたり、景観を崩したりすることで観光業にも打撃を与える恐れが

プレゼン部門は大島 遺産の島 ごみ減を

ある。ごみを減らすことが奄美の自然保護につながると考えた。

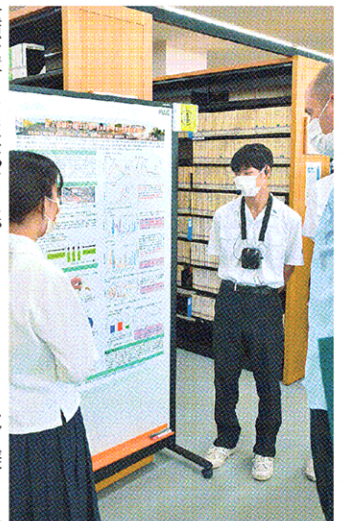
奄美市のリサイクル率は5%に満たず、5割を超える屋久島、全国平均2割と比べてとても低い。奄美市によると、島内にリサイクル施設が不足し、資源ごみの輸送費用がかかり、分別意識が低いことが原因だという。

市民にアンケートをして、生徒に講義をした結果、分別に対する意識を高めるには、日常的に知ることができる情報源が必要と考えた。みんなに簡単に見てもらえるようにウェブサイトを作成することにした。今後は市と提携して認知度を上げ、奄美を世界遺産にふさわしい島にしたい。

根拠を持って伝えることが非常に大事になる。インターネットは武器になるが、研究者にとつてはウェブサイトは引用、参考文献にはならない。きちんとしたデータに当たり、ホームページのレベルで止まらないでほしい。

ポスター部門 国分が最優秀

高校では来年から新学習指導要領に沿った授業が始まる。探究型学習に重点を置くことになっており、鹿国大が高大連携事業の一環として企画した。ポスター部門は、各々が5分ずつ、プレゼン部門は5分間で発表する。



ポスターでセミ研究の成果を発表する国分高校の生徒
＝鹿児島国際大学

表した。それぞれ質疑応答があり、独創性、問題意識の明確さ、調査研究の充実度、発表力、質疑応答の力に問われた。

ポスター部門で最優秀賞となった国分高校は2カ月間、セミの抜け殻を拾い集めて、羽化と気象条件の影響を調べた。3年の徳石太一さんは、先輩の研究を引き継いで、毎日のように研究を続けてきた。賞を取ってうれし

受賞校は次の通り。
「プレゼン部門」優秀賞 鹿児島修学館、奨励賞 鹿児島情報、ポスター部門優秀賞 錦江湾、神村学園、鹿児島、鹿児島修学館